

研究課題名	肺癌の治療耐性機序における PAI-1 の関与の検討
研究期間	実施許可日～2028年3月31日
研究の対象	2010年4月～2027年3月の間に化学療法や放射線療法、免疫チェックポイント阻害剤などの治療を受けた肺癌患者さん。
研究の目的・方法	<p>【目的】近年、進行肺癌に対して化学療法や放射線療法、免疫チェックポイント阻害剤などが単独、または併用して使用され、以前より治療成績も向上しましたが、それでも治癒に至る患者さんはほぼいないのが現状です。Plasminogen activator inhibitor-1 (PAI-1) は、主に我々の体内で過剰な出血を抑制する機能を持つタンパクですが、EGFR 遺伝子変異陽性肺癌に関する研究では、PAI-1 は分子標的治療薬に対する初期耐性に関与し、長期生存を目指すための治療標的となりうることが報告されています。これらの研究成果を踏まえて、本研究では、進行肺癌において PAI-1 が化学療法や放射線療法、免疫チェックポイント阻害剤等に対する耐性に関与するかどうかを明らかにするため、この研究を計画しました。</p> <p>【方法】本研究は、診療録（カルテ）から得られた臨床データと手術や検査で採取した病理検体を利用して研究を行います。術前補助療法の有無によって、肺癌組織内の PAI-1 発現や腫瘍免疫微小環境に差が出るかを免疫染色によって検討します。</p>
研究に用いる試料・情報の種類	<p>情報：年齢、性別、病歴、血液検査結果、画像検査結果等</p> <p>試料：気管支鏡検査や手術によって採取された肺癌組織</p>
外部への試料・情報の提供	ありません。
利用または提供を開始する予定日	本学における実施許可日（2024年6月27日）
個人情報の保護	試料・情報は解析する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものか分からないようにします。
研究組織	<p>本学の研究責任者</p> <p>広島大学病院呼吸器内科 特定准教授 益田 武</p>
その他	開示すべき利益相反はありません。
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる

情報は含まれません。

また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

広島大学病院 呼吸器内科

担当者：野村 晃生、隅井 允彦、益田 武

〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3

電話番号：082-257-5196